

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
1	<p>皇座山夫婦岩は世界中探しても例を見ない、素晴らしい聖地です。春秋のお彼岸の間、朝日夕日が二つの岩のど真ん中を通ります。夏至だけ冬至だけ、もしくは朝日か夕日どちらかと言う場所は数多くありますが、朝日夕日両方ともと言う場所は無いです。その私たちが存在する、遥か昔から変わらない奇跡の姿が、私たちの町には既にあります。どうか、その素晴らしい町だと言うことを、思い出して頂けるようになって欲しいと思っています。</p>	<p>観光施策及び郷土を愛する教育施策に対するご意見とお見受けしました。P.14「ア 観光の振興」およびP.33「ア 教育環境の充実」に係るご意見ですので、関係課においては、貴重なご意見として共有させていただきます。</p>
2	<p>地理の影響が過疎を助長する一番の原因のように書かれているが、それは過去の話。今はネットでなんでも買える時代。足りないものはインターネットで補完しながら暮らすという発想で考えれば良いのでは。または、それでもいいという人たちをターゲットに移住政策を行えば効率がよいのでは。</p>	<p>地理的条件について触れているのは、本町の置かれている状況を正確に共有するためであり、過疎化の原因を限定しているものではありません。むしろ、多様な要因によって現在の状況があると認識しており、その上で、地理的条件を含めた「本町ならではの特性」をどう強みに転換していくか、という視点から基本方針を示しています。</p> <p>ネットの普及により、生活物資の調達などは以前より容易になっていることは事実で、そうしたライフスタイルが適した方も一定数いらっしゃいます。しかし、移住・定住施策は幅広い世代・多様な生活スタイルの方々を対象とする必要があり、特定の価値観や生活様式に限定した施策とすることは適切ではないと考えています。そのため、基本方針では「ネットで補完できる生活」を否定するものではありませんが、それを移住政策の中心に据えることは想定しておらず、より多様なニーズに応えられる施策を総合的に進める考えです。</p>
3	<p>交通環境の改善、とあるがどいういうものがほしいのか、など実際に町民にアンケートはとっている？</p>	<p>過疎計画単独で新たにアンケートを実施してはませんが、今年度策定した総合計画において、住民アンケート、ワークショップ、審議委員会などで多くのご意見をいただき、それらを反映した計画となっています。</p> <p>過疎計画は、この総合計画の方針や住民意見の成果を踏まえて策定しており、住民の皆さまの声は十分に反映されていると考えています。</p> <p>なお、より詳細な交通環境の改善方策については、上関町地域公共交通計画策定の際、令和5年8月にアンケートを実施しており、こちらも総合計画において同様の整理しています。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
4	<p>申請手続きのスマート化、とあるが、都市部のように申請の待ち時間が数時間かかることもないし、地域コミュニティが売りの町なのであれば優先する事項では無いように感じる。高齢者などのデジタル弱者が本当にデジタルを求めているのに推進しても無駄なように感じる。</p>	<p>申請手続きのスマート化は、都市部の例だけでなく、開庁時間に来庁が難しい働く世代や、町外で生活する学生、介護や看護で外出しづらい方、町外に居住する空き家所有者、そして移動が困難な高齢者の方など、多くの方にとって利便性向上につながる取り組みであると考えます。また、本町の総合計画策定時に実施したアンケートやワークショップでも、デジタル化やオンライン手続きに関する要望が寄せられており、こうした住民意見を踏まえて施策化しています。</p> <p>高齢者の方はデジタルに馴染みがない、というイメージがありますが、総務省の通信利用動向調査や内閣府の高齢社会白書で示されているとおり、高齢者のスマホ利用やインターネット利用率は大きく増加しています。また、上関町公式LINE登録者の約3割が高齢者であり、こうした状況からスマート化は高齢者を含む多くの方にとって有効な施策であると考えています。スマホを生活インフラとして捉え、むしろ高齢者の方にこそスマホを活用していただきたいとの思いから、R7年度からスマホ相談コーナーを設置しており、高齢者を含む誰もが安心して利用できる環境づくりも同時に進めているところです。</p> <p>地域コミュニティの大切さは変わりません。デジタル化はコミュニティを否定するものではなく、必要な人に必要な手段を届けるための選択肢の拡充です。今後も、地域のつながりとデジタルの利便性を組み合わせ、町全体の暮らしの質の向上につながる施策を進めていきます。</p>
5	<p>維持費のかかる公共施設よりも、ダウンサイジングに賛成。</p>	<p>公共施設のあり方については、真に必要な機能や規模をどのように確保していくか、今後、各自治会や議会、そして役場内でも丁寧に協議・調査を進めながら、多くの方に共感いただける方向性を示していきたいと考えています。</p>
6	<p>空き家バンクが全く動いていない・更新されていないように感じる。需要はあるため、もっと件数を増やしてほしい。また、空き家を賃貸として貸すことで移住のハードルは大きく下がると思う。</p>	<p>空き家バンクにつきましては、令和5年度からデータベースの改修と、宅建業者と協定を締結したことにより、情報発信の頻度や内容が大きく向上し、契約・登記手続きもスムーズになったことで、相談・登録・成約件数が増加しています（R4年度：登録5件・成約1件、R5年度：登録12件・成約4件、R6年度：登録13件・成約6件）。</p> <p>一方で、ご指摘のとおり需給バランスには課題があり、入居可能な状態にない物件が多いことから、改修等に活用できる補助制度の利用促進が重要と考えています。また、所有者の多くが空き家を“負動産”と捉え、賃貸よりも売却を希望される傾向が強いことも、賃貸物件が増えにくい要因となっています。</p> <p>このように空き家バンクの活用には課題もありますが、補助制度の周知や登録促進のPRを強化し、引き続き件数の増加とマッチングの促進に取り組んでまいります。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
7	<p>Vtuberのんちゃんの実際効果はあるのか？実際的にあまり特色・魅力を感じない。どんな人をターゲットにしているのかもわかりにくい。やめても良いのではないかと思う。「上関」に移住者が求めるイメージとは違うように感じる。</p>	<p>上関町公式VTuber『のんのちゃん』については、フォロワー数だけでなく、YouTube・X共に高いエンゲージメントを維持しており、情報発信ツールとして一定の効果上げています。今年度からはグッズ販売収入や動画の収益化も始まり、町の認知度向上に寄与していると考えます。</p> <p>特にXでは、投稿ごとのインプレッション数やエンゲージメント率が高く、実際に投稿を見て来町された方や、タイムリーな情報発信によるイベント参加者の増加など、具体的な行動変容にもつながっています。また、フォロワー層は25～44歳の女性が多く、これまで町の情報に触れる機会が少なかった層へリーチできている点も大きな成果です。</p> <p>フォロワーを「上関ファン」として捉え、広く不特定多数に向けた発信ではなく、共感性の高い層に対して情報が届きやすく、共有・拡散されやすい点も特徴です。こうした取り組みは計画に記載のとおり、関係人口・交流人口の拡大を目的とした地域間交流促進の施策として位置づけており、移住促進を主目的としたものではありません。そのため、『移住者が求めるイメージと違うのでは』というご意見は理解しつつも、のんのちゃんは別のターゲット層に向けた施策であり、町の魅力発信の多様化という観点から一定の役割を果たしていると考えています。</p>
8	<p>上関に求める「漁業」は天然物が一番だと思う。養殖のみではなく、天然物を獲る漁業者に対しての補助などは検討していないのか。そういう人材を育てようという政策はないのか。</p>	<p>現在、町内で養殖業を営む事業者は栽培漁業協会のみであり、その他養殖について研修・検討をされている方もいらっしゃいます。天然魚に限定すると特定の漁法に偏ることとなり、公益性・公平性の観点から適切ではないと考えています。このため町としては、漁業者への直接的な支援ではなく、安定した漁獲を目指した種苗放流や漁礁などの環境整備に力を入れていく考えです。また、天然魚には“天然である”という固有のバリューがありますが、養殖には魚価の安定、供給量の確保、雇用の維持、資源管理など、漁業全体を支える重要な役割があります。漁業には多様な形態が共存しており、天然と養殖はどちらが優れているというのではなく、互いに補完し合う存在であると考えています。</p> <p>人材育成については、町として産業全体を対象とした人材育成事業を実施しており、新たな漁法の習得や養殖技術の研修などにも活用いただいています。漁業分野を含め、上関の産業全体の活性化につながる取り組みとして、今後も継続して支援していきたいと考えています。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
9	道の駅に導入された「スーパー」が「コンビニエンスストア」のヤマザキショップであったことは残念でした。子どもが少ないのにお菓子のコーナーばかり多い印象。もっと生活に寄り添った日用品を増やしてほしい。	道の駅の店舗について、品揃えに関するご意見は大切に受け止めています。今後、関係課と道の駅運営者が連携しながら、いただいたご意見を参考に、より生活に寄り添った売り場づくりに向けて改善を検討していきます。
10	婚活イベントは結果が出ている？現代は婚活イベントは疑問視されている点も多く。わざわざ町で行う必要は無いと思う。それよりも、町に興味のある人を増やすことのほうが大事では「結婚活動」を応援とあるが、仮に町の取り組みで「結婚」しても、上関町に住みたいのかどうか問題なので(上関で出会って結婚したとしても、町外に流れる可能性も大いに考えられるため)、「結婚活動」を応援するのではなく、「結婚しても住みたい町」にするための取り組みにのみ重点を置かなければ意味がないのでは。	これまで婚活イベントは広域圏で実施しており、カップル成立という成果は出ているものの、それが直接的に定住や移住に結びつくケースは多くないという問題や、婚活イベント自体に対して疑問の声があることも承知しています。しかし、本町のように若者の出会いの機会が限られる地域では、行政が出会いの場をつくることには一定の公共性があるとも考えており、未婚化・晩婚化が進む中で、出会いの場の創出は国の少子化対策でも明確に位置づけられ、自治体として取り組む意義があると考えています。 このため、単に出会いの場を提供することに終始せず、今後は町独自の要素を盛り込んだ取り組みとして、町の魅力を体験していただく観光要素も組み合わせたいイベントとして位置づけることとしています。また、イベントを通じて移住・定住に関する情報提供と、成婚者には移住定住関連補助金の上乗せ支援を行うこととしており、結婚活動支援は「住みたい」とセットで初めて効果があるものと考えていますので、その取り組みも同時に進めているところです。上関町で暮らすメリットを丁寧に伝えていきたいと考えています。
11	介護保険サービスについて。高齢者が長く自宅で過ごすために、診療所などに人を集めることよりも、それぞれの家庭に赴く訪問系サービス(訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ)を町として重視することを考えては？そのほうが費用対効果としてもよいのでは。	ご意見のように、訪問系サービスでのご本人の状態に合わせた個別支援は在宅生活継続に欠かせないものであり、町としても重視しているところです。加えて、地域の中で出向く場が複数ある事はこれまでの関係性の維持だけでなく、そこに至る過程で新たな繋がりが生まれる効果もあります。上関町過疎地域持続的発展計画(案) P.27に記載のとおり、地域全体で支え合う地域包括ケアシステムの構築に力をいれていきます。

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
12	祝島診療所では小児は診てもらえないため、オンライン診療を早く開始してほしい(看護師の来島のある日のみだけでも)	<p>上関町過疎地域持続的発展計画(案)P.31に記載のとおり、オンライン診療も含め自宅往診などが行える医療体制を強化に取り組んでいきます。一方で、小児診療については、対応できる医師の確保が極めて難しい状況にあり、祝島診療所での小児診療や、小児科医によるオンライン診療を新たに導入することは現実的ではないと考えています。</p> <p>小児診療を専門とする医師を追加で確保することは、財政面・人材面の両面から困難で、オンライン診療についても、別途小児科医を確保する必要があり、同様に実施は難しい状況です。</p> <p>現行の医療体制の中で可能な範囲のオンライン診療については引き続き実施を継続し、この度のコメントは貴重なご意見として承ります。</p>
13	「郷土愛と生きる力を育む小中一貫教育」には違和感を感じる。郷土愛を持てるかどうかは、教育によるものではなく、子どもの自由で押し付けるものではない。「郷土のひとたちが子どもをちゃんと愛していると子どもが感じられるか」が本当では？	<p>「郷土愛」の感じ方は人それぞれで、ご指摘のように「地域の大人に大切にされていると実感できること」も大きな要素であると考えられます。上関町が小中一貫教育の中で掲げている「郷土愛を育む」という言葉は、地域の歴史や文化を知り、地域の人との関わりを通して、自分の住むまちへの理解や愛着を深めてもらうという意味で使用しています。これは、国の方針や学習指導要領にも記載され、教育の一部であると位置づけられています。</p> <p>教員だけでなく、地域の方々とふれあいながら学ぶことも教育の一部であり、そうした経験が子供たちの「生きる力」につながるものと考えています。押し付けるのではなく、子供たちが自然に地域に親しみを持てるような環境づくりを進めていきます。</p>
14	祝島での図書館が貧相すぎる。利用者も多いように思えない総合センターのみではなく、町民全員が図書を利用しやすい仕組み(移動図書など含め)を検討してほしい。	<p>現在、白井田、四代、祝島の3地区では団体貸し出しを行っています。これは、各支所・分室にご希望の図書を送付し、利用者の方が支所・分室で貸出・返却ができる制度です。また、離島の利用者の方に対しては、電話申込やインターネット申込での個人貸出返却の対応も行っています。</p> <p>遠隔地の方も利用しやすい環境を整えていますが、こうした制度があることをさらに周知する必要があります。利用者の方々のご意見を参考にしながら、より利用しやすい環境を整備していきます。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
15	<p>生活の質向上の項に、「大規模商業施設やコンビニの整備」とあるが、町をダウンサイジングしていくことに逆行していないか。それよりも、歩いていける範囲にある個人商店が複数ある方が、「足のない人々」にとってもよいし、その地域の拠点が作れるのではないか。そしてそういう町自体の起業者を支援すべきではないか。観光と産業の発展の項にある「室内での水耕栽培」も上記同様に、新しく施設を作るのではなく、環境と持続可能性の項にあるような「棚田でも成立する農業モデルを確立」というふうに、あるもの・ある場所での可能性をまずは考えるべきかと。健康と福祉の項に対しても、「福祉施設」を増やすのではなく、オンライン診療や訪問系サービスを充実させることが、ダウンサイジングにも繋がり、満足度の工場にもつながるように感じる。</p>	<p>大規模店舗や水耕栽培、福祉施設について、こちらはこの度の過疎計画ではなく、総合計画のP.23のことについてのご意見と思われまます。こちらに記載の「10年後に望むまちの姿」は、総合計画を策定するにあたって住民ワークショップで提示された「住民からのご意見」です。</p> <p>総合計画では、小売店の維持や起業支援、買い物支援に力を入れていくこととしています。また施設を増やすということを計画では謳っておらず、むしろ必要か否かを考慮したダウンサイジングを行うこととしています。上関町過疎地域持続的発展計画（案）は総合計画を基とした計画ですので、当然、この方針で作成を行っています。</p>
16	<p>「結婚活動」を応援とあるが、仮に町の取り組みで「結婚」しても、上関町に住みたいのかが問題なので(上関で出会って結婚したとしても、町外に流れる可能性も大いに考えられるため)、「結婚活動」を応援するのではなく、「結婚しても住みたい町」にするための取り組みにのみ重点を置かなければ意味がないのでは。</p>	<p>No.10で回答のとおり</p>
17	<p>「基本計画」P22 ゴミの減量化に対して、生ゴミの回収→堆肥化やコンポストやキエー口の普及・推進などは考えていないのでしょうか？</p>	<p>ごみの減量について、ご指摘の普及・推進は、計画されていません。しかしながら、ごみ減量や環境負荷の軽減に資する取組として、検討を進めてまいります。</p>
18	<p>子育て世帯や高齢者などが議会の傍聴に行くことが難しいため、他の市町村の様に、議会の様子を誰でも見れるように配信するなど検討してほしい。議会だよりのみでは情報が少ないように感じる。</p>	<p>現在、議会の審議内容については町ホームページで議事録を公開しており、どなたでも確認ができるようになっております。議会の傍聴をネットで発信することに関しては、議会と調整しながら検討していきます。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
19	<p>P9 過疎地域持続的発展の基本的な方針及びP.12移住・定住・地域間交流の促進、人材育成について、どちらも住民を増やすための方法だと思いますが、現実的には、仕事、住まい、学校の3つが最も大切だと思います。上関町では、海、山の自然にめぐまれた場所なので、一次産業を生かしていけるような取組を重点的にしたらどうでしょうか？それぞれの地区で条件は違いますが、例えば、耕作放棄地を移住して来た人が、利用しやすいように、行政がしくみを作るといいのでは？食料生産が増えれば、生活出来る人の人数も増えていきます。お米は、となりの町の平生、田布施と連けいして地域で自給する方法もあるかと思います。上関町に住めば、食料には困らないという安心感があれば、それだけでも移住の動機の一つになると思います。その上で、その事が仕事になれば、いう事なしです。若者の人口比率が低いというのは、高校、大学が地元がない、または、通えない、という事だと思います。今、都会で暮らしている人達は、自然との触れ合い体験を求めている事ははっきりしています。そういう人達の受入を、地域ぐるみで出来れば、関係人口、交流人口の拡大につながって、更に、定住の可能性も出て来ます。一年を通して、体験が出来るような事を考えて行きましょう。</p>	<p>本計画における「人材育成」は、住民を増やすための施策というよりも、地域の方が主体的に動き、よりよい環境をつくるためのリーダーを育てることを目的としています。地域の担い手が育つことで、結果として移住・定住の受け皿づくりにもつながると考えています。</p> <p>移住・定住の促進には、仕事・住まい・教育の三つが重要であるというご指摘はそのとおりであり、上関町の強みである自然環境を生かした一次産業の活性化も大切な視点です。一次産業は担い手不足や高齢化など多くの課題を抱えていますが、計画案に記載しているとおおり、衰退しつつある産業に活力と希望を見いだせるような取り組みを今後進めていきたいと考えています。</p> <p>耕作放棄地の活用については、農地法の仕組み上、営農目的で自治体と個人が直接貸し借りすることはできず、所有者と耕作者、または農地中間管理機構を通じて貸与や売買を行う必要があります。より農地を活用していただくため、利便性のある利用可能な耕作地を選定し、移住者と土地所有者をつなぐマッチングの仕組みについて検討を進めています。また、周辺自治体と連携して米を地域内で自給するというご提案については、三町の作付面積や生産量、そして米が広域流通を前提に価格が形成されているという現状を踏まえると、現実的には難しいと考えています。地域内だけで流通を完結させると価格が不安定になり、農家の収入にも影響が出ますし、自治体単独で備蓄や保管を行うには設備やコストの面で大きな負担が生じます。契約栽培や直売所など一部例外はありますが、基本的には国の食料安全保障制度やJAの流通を活用することが現実的であると考えています。</p> <p>若者の人口比率が低い背景には、高校や大学が近隣にないことや通学の不便さに加え、結婚・出産・子育て支援の課題も影響していると考えています。これらについては計画案に沿って、今後五年間で改善に取り組む方針です。</p> <p>自然体験や地域交流の取り組みは、関係人口の拡大や移住のきっかけづくりとして大きな効果が期待できますが、こうした活動は持続性や自由度の面から住民が主体的に企画・運営することが望ましく、町としては、住民の取り組みが円滑に進むよう、安全管理や調整、広報など必要な部分をしっかり支える伴走支援の体制づくりに努めていきます。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
20	<p>立派な病院施設は要らない。人柄、安心感、信頼等、定住して頼れるドクター。</p> <p>道路、余り広いとスピードを出しすぎて怖い。限られた予算で人口規模に見合ったまちづくりを。</p> <p>世界情勢を見ていると、今は中間貯蔵施設、核のゴミというけど宝になることもありえる。</p> <p>不確かな時代、上関町民が仲良く平和に暮らしたい。</p>	<p>本ご意見は上関町過疎地域持続的発展計画の趣旨とは異なる内容ではありますが、貴重なご意見として承ります。</p>
21	<p>P,10、P,18に関連して情報発信の充実について、関係人口、交流人口の拡大に向けて「かみのせきファン」を増やす取り組みもありと思います。実際にスタンプラリーのような企画で祝島を訪れた方がありました。</p> <p>関係人口を増やす、興味関心を持ってもらうという目的として、議会に傍聴に行けない人のためにインターネットで発信することも必要ではないでしょうか。町で何が話し合われているかをリアルタイムで知らせる（知ってもらう）ことこそが情報時代の今、必要とされます。半島や離島の集合体である上関町こそ現在のリモート技術を利用すべきでしょう。技術的には可能、経費の点も無理ではない筈です。YouTube発信はいかがでしょう。</p>	<p>情報発信については、徐々にではありますが各種SNSやWEBプレスリリースを活用して情報を届ける範囲を広げているところで、ご記載いただいたスタンプラリーもその一環として実施しています。SNSはその情報が必要な人に、届けたい人に、タイムラグなく届けられることも大きな利点ですが、第三者の解釈や編集を介さず、発信者の意図を変質させずに直接届けられる、極めて純度の高い情報発信手段であると考えていますので、今後とも計画のとおり実施・拡充を図っていきます。</p> <p>議会の審議内容については町ホームページで議事録を公開していますが、議会をリアルタイムで発信することに関しては、議会と調整しながら検討していきます。</p>
22	<p>9～12ページ関係</p> <p>町役場の前にある歴史的な家屋（しょうゆ倉？）町の所有物となると聞きました。これに関しては何の計画も出ていないとのこと。遊ばせておくのは大変もったいないです。町経営又は町内外に広く営業希望者を募集し、カフェ等、町を訪れた人が一息つける場所として、又町職員の休憩や食事の場所としての提供も可能であると考えます。</p>	<p>坂田邸のことであると推察します。こちらは庁内で現在も検討を進めているところであり、計画立案にまで至っていません。歴史的建造物でもあることから、活用について各種団体や個人の方から様々な意見をいただいている状況です。おっしゃるとおり町のシンボルともなり得る素晴らしい物件であると認識していますので、これらを調整した上で、今後どのようにしていくべきか結論を出したいと考えています。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
23	<p>12ページ特にウ 町内、どこを切り取っても魅力的で観光に最適と思います。ペンションでも建てたくなるような場所がいっぱいあります。第3セクターである上関航運の協力を得て、町内全域、海上からの眺望を楽しんでもらうことを観光企画として取り組むというのはぜひやってもらいたいことのひとつです。離島在住の自分でさえ、並段は経験しません。その他、例として船で八島に渡っての磯遊び（学習）など、専門家を交えて一日を楽しむ等、参加者を広く求めればきっと磯シリーズとして根付くように思います。すでに本土側、島側で実行されている例もあります。町としての企画であれば又、ひろがりも大きくなり、関係人口の拡大につながるのではないのでしょうか。</p>	<p>地域間交流及び観光施策に係るご意見ですので、関係課においては、貴重なご意見として共有させていただきます。</p>
24	<p>原発や核のゴミ置き場を作ろうとする中国電力のお金に頼らずに済むよう、皆試行錯誤と努力をしております。集まったパブリックコメントをぜひ行政に生かしてください。</p>	<p>この度のパブリックコメントでいただいた貴重なご意見は、各関係課に伝達の上、今後の町政に生かしていきます。</p>
25	<p>P.31(2)ア 離島で何より不安なのは、常時医師、看護師不在ということです。いつのまにかウヤムヤにして不在になってしまいました。移住・Uターンのできない理由のひとつに医療の問題です。それは現在住んでいる者にとっての不安でもあります。救急にしても依頼するか、その判断、或は搬送迄の対処の為に医師・看護師の常駐を願います。</p>	<p>祝島診療所には平成27年12月まで常勤医師が配置されていましたが、その後は非常勤医師による診療体制へ移行しました。平成28年2月から現在まで、診療日は水曜日と土曜日の午後1時40分から午後4時40分までで、体制変更後もこの診療日時で継続しています。診療日が減ることについては、当時説明会も行われていますが、その後も診療日時に変更はありません。</p> <p>常勤医師や常勤看護師の配置については、人材確保が極めて難しい状況に加え、財政面でも対応が困難であるため、現体制での運営が精一杯となっています。現在は、水曜・土曜の診療日に医師1名と看護師2名が勤務し、木曜日には看護師1名が対応しています。</p> <p>緊急搬送が必要な場合には、診療日や看護師が勤務している時間帯であれば、できる限り迅速に対応し、周東総合病院と連携して搬送を行っています。本土側と比較すると十分とは言えない面もありますが、離島という条件の中で、現状が確保可能な最大限の医療体制となっています。</p>

R7 上関町過疎地域持続的発展計画パブリックコメント一覧

No.	提出意見	対応
26	<p>P14～15 観光について</p> <p>せっかく素晴らしい自然を持っているのに観光資源として生かされていない。上盛山から見たパノラマは本当に感動します。が、そこに行く迄の道は草がはえ、雑木で周りが見えず・・・上関から四代、白井田を回った時に、その海岸線の美しさに思わず歓声を挙げました。又、定期船に乗って海岸線を見ると小さな入江が沢山あってキャンプ地にできないのか、と。</p> <p>全国各地に人気スポットがありますが、ある程度の規模を有し（城山の桜祭りのように）ている所を、見に行きます。個人の家庭の花壇が美しくあるのはもちろんよいですが、集まって咲いている美しさを四季折々に魅せることで集客できると思います。これは人工造物ですが、上記のように上関にはたくさんの、というよりそのものが美しい誇るべき自然造物です。子供の頃から自然を守ろうと教えられてきました。海や山に居ると本当に幸福感に包まれます。この誇るべき自然の素晴らしさを守ることと、目先の自分たちだけが享受しようとする原発財源によるサービスを求めるのは矛盾していませんか。原発施設があったり、その計画に揺れる町に人が来ると思いますか。原発施設がある町に、子や孫に帰っておいでと言えますか？『花咲く海の町』と原発施設とは相容れません！</p>	<p>観光施策に係るご意見ですので、関係課においては、貴重なご意見として共有させていただきます。</p>